



フランツ・カフカ原作
足立正生監督

シニールが
織りなす
カオスの中に
ポップな
アートが
顔を出す。

断食芸人

山本浩司
桜井大造
流山児祥
本多章一
伊藤弘子
愛奏
岩間天嗣
井端珠里
安部田宇観
和田周
川本三吉
吉増剛造(特別出演)
田口トモロヲ(ナレーション)

監督・編集 足立正生
企画・脚本 足立正生 小野沢稔彦
制作 小野沢稔彦 古川嘉久 坂口二直 大高彰
Asian Culture Complex - Asian Arts Theater

撮影 山崎裕
音楽 大友良英+ライブ演奏者たち

録音 志満順一
美術 黒川通利
照明 山本浩資
助監督 野本史生

ヘアメイク 入江正幸
スタイリスト 片柳利依子
ラインプロデューサー 藤原恵美子

劇中画・彫像 山村俊雄
題字 西垣内江春
スチール 荒木経惟

配給 太秦 協力 テトラカンパニー
メイキング 馬込伸吾

©2015「断食芸人」製作委員会
2015 日本 カラー DCP-1042 <https://tanjikeinin.wordpress.com>



カフカ×足立正生

～混ぜるな危険～

キツチュカが織りなすディープな“夢”
奇想天外にして遣る瀟無き世の写し絵となる、
最強にとんちきで最高に奇大烈なムービーがここに誕生!!

さまざまな解釈を可能とするカフカの著作「断食芸人」を1960年代に“アングラの旗手”として知られ、後にフランスシネマ革命に身を投じた伝説的映画監督・足立正生が原作から1世紀の時を経て映像化!「幽閉者 テロリスト」(07)以来の約10年ぶりの監督作品となる。残酷で不条理な国で見世物にされる一人の男。人々は勝手に「断食芸人」を創りあげ、過熱してゆく。やがてその男の周りはグロテスクに膨張して不穏で禍々しい異様な世界へと姿を変えていく。そこは観る者の姿を映し出す小惑星。もう傍観者ではいられない!断食芸人は天使か?悪魔か?いったい何者なのか?混沌とした異空間をエモーショナルに描き出すレジェンドのワールドが炸裂した大作!



ストーリー

世界が桃色に変わるとき、この地上に「断食芸人」が出現した。男は「断食芸人」になった。かつては唯の男だった。悠久の時の中で人類の愚かさを知り、哀しみをとらえ、絶望を眺めてきた。過去の時は新しく、未来はとてども懐かしい。「断食芸人」。永遠の意味を知る唯一の存在である。

ここんとこ日本の映画は家族ものでぶったるんでから
こららっぱつ血煙をあげてくれないとね。
そうとうおもしろいね、この映画。

荒木経惟(写真家)

学生時代に観た「性遊戯」(68)にヤラれてから四半世紀…、
「幽閉者 テロリスト」(07)、「断食芸人」と、足立正生という映画運動に参加出来ることの奇跡と光栄。
永遠なるアヴァンギャルドの巨人との出会いに感謝です!

田口トモロヲ(俳優)

自由に断食することさえ許されない社会のなかで、虚空を見つめる彼の眼には何が写っていたのだろう。己の生命を枯渇させながら力一杯踏ん張り、自らが生み出したものを口にした時の満足げな彼の顔は、どの誰よりも生き生きと輝いていた。そして、足立監督にしかできないユーモアとイロニーが心に突き刺さった。

井浦新(俳優)

「フランツ・カフカ」

20世紀の文学を代表するチェコ・ブダペスト出身の作家。「断食芸人」は1924年、カフカの死の二ヶ月後出版された。モルヒネを打ちながら死の淵で生み出され、「変身」「審判」にも共通する独特のユーモアが魅力の作品である。ネガティブすぎる生前の発言記録が近年、注目を浴びている。



～絶望名人カフカの残した言葉～

- ミルクのコップを口のところに持ち上げるのを嫌くなり、そのコップが、目の前で砕け散り、破片が顔に飛んでくることも、起きないとは限らないからです。
- ちょっと散歩をしただけで、ほとんど三日間というものが、彼れのために何もできませんでした。
- もう五年間、オフィス生活に耐えてきました。最初の年は、民間の保険会社で、特別にひどいものでした。朝八時から、夜七時、七時半、八時、八時半……まった!

2016年2月27日(土)より公開!

特別前売鑑賞券1,400円(税込)にて絶賛発売中! ※当日一般1,700円(税込)の如く劇場窓口にてご購入の方へ偽造パスポート風オリジナルポストカードをプレゼント!

ユロスペース
EUROSPACE
TEL 03-3481-0211 www.eurospace.co.jp